

1-4-2. 山田町体験観光推進協議会（岩手県山田町）

(1) アドバイザー派遣申請の背景

●地域の概要

【人口】16,204人（平成28年11月1日現在）

【面積】263.45 km²

【地勢】

岩手県下閉伊郡山田町は、岩手県の沿岸部陸中海岸のほぼ中央に位置する。町の北部は宮古市、西部から南部にかけては大槌町に隣接し、東部は太平洋に面している。東部は北上山地が太平洋に沈降する典型的なリアス式海岸である。山田湾と船越湾の二つの湾を擁している。一部地域は三陸復興国立公園に指定されており、壁岩、磯、赤等の海岸性原生自然の景観に優れ、学術的にも価値が高い。

また、豊かな漁業資源に恵まれており、波が静かな山田湾と船越湾は好漁場・漁港となっている。かき、イカ、アワビ、ウニ、ホタテ、ワカメ、サケ等を収穫する水産業が盛んである。山田湾に広がる養殖筏の風景は山田町のシンボルであり、三陸らしい地域景観である。

【気候、自然】

気温は8月が最も暖かく、2月が最も寒い。降水量は9月が最も多く、2月が最も少ない。海流（親潮、黒潮）の影響を受け、県内陸部と比較して冬期は暖かく夏期は涼しい。

夏期はやませ（山瀬）と呼ばれる冷涼・湿潤な風の影響で急激に気温、見通しが低下することがある。年間平均気温10.3℃、年間平均降水量1,513mmである。

【歴史】

現在の山田町は、1955年（昭和30年）の町村合併により誕生した。また、同年、三陸一帯が陸中海岸国立公園（現・三陸復興国立公園）に指定され、山田町も、船越半島をはじめとする地域が国立公園地域に指定された。

過去に、明治三陸大津波、昭和三陸大津波、チリ地震津波、東日本大震災等の大規模災害を経験している。かつて、商業捕鯨が盛んであったが、1987年に国際捕鯨委員会（IWC）の規制により幕を閉じている。

1643年、オランダ船ブレスケンス号が山田湾に入港。水、食料、野菜を補給するために入港した船員に町の人々は温かくもてなした。それがきっかけで350年を経た平成5年にオランダ王国との文化交流が始まり、ユース年代を迎えてのサッカー交流や、オーケストラの公演など、まさにヨーロッパの香りが届けられてきた。なお、そのような史実により、山田湾内に浮かぶ島をオランダ島と命名している。

【観光】

震災前は、山田町観光協会を中心に、地元の漁業や海の自然美を活かしたあさりまつり、山田の鮭まつり等のイベントのほか、海上漁業体験・海岸美探勝、陸上漁業体験、季節毎の特色を活かした体験を提供してきた。また、鯨と海の科学館でのムラサキガイのアクセサリーづくりや海藻しおりづくり、木村商店でのいか徳利づくり等、気軽に参加できる体験プログラムも提供されてきた。

東日本大震災により観光関係の施設的全壊・流失等の被害を受け、多くの体験企画は提供できない状

況にあるが、関係者の努力により、復興が進められている。

町内の宿泊施設の宿泊容量は一般観光客の利用が想定されない「その他」の2施設を除外すると、実質的な宿泊容量は、総部屋数162室、総宿泊可能386名である。

【地域資源の概要】

山田湾、オランダ島、大釜崎、赤平金剛等リアス式海岸の自然景観、「鯨と海の科学館」や「船越家族旅行村」、「道の駅やまだ」「復興かき小屋」「観光物産館とつと」等の観光施設がある。

●アドバイザー派遣の背景・これまでの取り組み

《背景》

山田町では、平成27年度まで環境省における復興エコツーリズム事業および「山田町観光復興ビジョン策定」にて、町民による検討会を積み重ね、町の体験観光のあり方、推進方法等を検討してきた。

その検討内容や要望、ビジョンを実現・実施するために、町では平成28年度、体験観光コーディネーターの育成と体験観光を推進するための「山田町体験観光推進協議会」を設立した。現在、体験観光コーディネーターの人材育成と体制の基盤づくりに取り組んでいる。

同時に、体験観光コーディネーターが町内事業者（ガイドを含む）の連携・情報共有、町外の方々（旅行エージェントやお客様）とのマッチング、情報発信、体験プログラム開発・スキルアップを進めていくためには、町内の各関係者の育成・研修も最優先事項となっている。

《地域課題》

- エコツーリズム検討会や観光復興ビジョン策定において、商業関係者の参加がほとんどなく、復興途中の商店街の巻き込みができていない。
- 役場内では、観光担当課（水産商工課）においては観光推進の重要性を認識していたが、庁内全体では共有されていない。
- 震災前まで観光客の受け入れを積極的に行っていなかった町であるため、町民の体験観光における「もてなし」のスキルが低い（どうすればいいのかわからない）。
- 体験プログラムの内容と本数が少ない。
- 他地域のことを参考にしたり勉強したいが、仕事を持っている事業者には、先進地視察は負担が大きすぎる。

《申請目的》

町内事業者向けの育成・研修のひとつとして、アドバイザーのお力を借りて、町民および行政の体験観光の意義、意識向上、おもてなしの基本、ガイドスキルの向上等を図りたい。

(2) アドバイザー派遣の実施概要

日	時	平成 29 年 3 月 2 日 (木) ～平成 29 年 3 月 5 日 (日)
場	所	山田町まちなか交流施設
ア	ド	バ
イ	ザ	ー
		江崎貴久氏 (株式会社オズ 代表取締役)
参	加	者
		計 19 名 ・山田町体験観光コーディネーター ・マリン・ツーリズム山田 会員漁師 ・新生やまだ商店街 震災語り部 ・一般社団法人山田町観光協会 ・地元ガイド希望者 ・商工会 (本部、女性部、青年部) ・山田町役場職員 ・山田町町議会議員 他
スケジュール・方法		<p>【1 日目】 15 時 宮古駅にてお出迎え後、山田町へ 16 時 30 分 山田町役場到着、役場内案内後、講演会会場案内 18 時～ 副町長との会談 19 時～ 打ち合わせ</p> <p>【2 日目】 9 時～10 時 30 分 講演会「交流人口増加に、自分たちもなにかできる！」 ①～観光客を呼び込む町の活性化のアイデア～ 11 時～14 時 昼食 (四季海郷)、打ち合わせ等 14 時 30 分～16 時 講演会 「なぜいま町をあげて観光を推進することが必要なのか」 18 時 30 分～20 時 講演会「交流人口増加に、自分たちもなにかできる！」 ②～観光客を呼び込む町の活性化のアイデア～</p> <p>【3 日目】 10 時～12 時 講習会「体験観光で山田町をもっと楽しく」 ～体験観光とは？ 体験プログラムの作り方とは？～ 12 時 30 分～13 時 30 分 昼食 (釜揚げ屋) 14 時～17 時 講習会「おもてなし講習」 18 時～23 時 交流会 (竹松や)</p> <p>【4 日目】 9 時～10 時 町内視察後 (道の駅やまだ、漁師作業場)、山田町発 11 時 宮古駅にてお見送り ※講演・講習会は、すべて山田町まちなか交流センターにて行った ※①と②は同じ内容 (商業者によって参加しやすい時間帯が異なるため)</p>

(3) アドバイスの内容（議事録）

●講演会「交流人口増加に、自分たちもなにかできる！」

～観光客を呼び込む町の活性化のアイデア～

《内容》震災から6年が経ち、ようやく本設の商店が少しずつ立ち始めたなかで、新しい町ができてソフトや外からの人の受け入れの工夫・努力をしなければ、シャッター街になってしまう。鳥羽の実例を教わりながら、山田町でできることのヒントをいただいた。

《主な参加者》商店街店主、観光協会職員、商工会、まちづくり会社、道の駅やまだ、水産商工課等
参加者：2回合計32名

- ・観光で地域が潤う仕組みづくりと連携づくり
- ・地域の魅力が伝わる自分たちならではの方法
- ・ツアー以外での経済効果
- ・鳥羽市の漁観連携について
- ・観光が地元民とお客様を結ぶ
- ・島っこガイドの話 等々

●講演会「なぜいま町をあげて観光を推進することが必要なのか」

《内容》観光を町全体で推進するにあたり、行政、各団体とその重要性についての共有をするため、観光が町に及ぼす波及効果や鳥羽市での取り組みを講演していただいた。

《主な参加者》山田町役場、観光協会、商工会、商工会青年部、道の駅やまだ、一般等
参加者：計19名

- ・行政の役割と民間事業者の役割（ベクトルを同じにする）
- ・山田町にしかできないこととは（江崎氏が視察で見た山田の資源を例に）
- ・鳥羽市と山田町の比較
- ・観光で地域が潤う仕組みづくりと連携づくり
- ・観光資源化のプロセス
- ・鳥羽市の漁観連携について
- ・観光協会によるふるさと納税について

●講習会「体験観光で山田町をもっと楽しく」

～体験観光とは？ 体験プログラムの作り方とは？～

《内容》現在体験観光に関わっている人、または今後関わる可能性のある人を対象にした、体験観光プログラムの効果や手法など、より実践的な内容を、ワークショップ形式で行った。

《主な参加者》観光協会、マリン・ツーリズム山田会員漁師、白石集落農業生産組合、宿泊施設、道の駅やまだ、水産商工課、商工会、一般等
参加者：計19名

- ・観光とは
- ・海島遊民くらの体験プログラムと島っこガイドの動画
- ・ガイドの総合力とは
- ・グループワーク「自分のポジショニング。マーケティングは、ガイド自身の分析から」
- ・グループワーク「山田町の資源分析」
- ・グループワーク「プログラムをつくろう」（テーマは「やませ」と「帆っ立て小屋」）
ストーリー展開と地域への効果

●講習会「おもてなし講習」

《目的》現在体験観光に関わっている人を対象に、体験観光において必要な「おもてなし」やガイドの仕方の講習会の予定だったが、午前中の講習会とメンバーがほぼ同じだったため、午前中の続きを行い、「おもてなし」は、ガイドの立ち位置など、具体的なスキルを教わった。

《主な参加者》観光協会、マリン・ツーリズム山田会員漁師、宿泊施設、道の駅やまだ、水産商工課、一般等、参加者：計13名

- ・グループワーク「プログラムをつくろう」（テーマは「やませ」と「帆っ立て小屋」）
ストーリー展開と地域への効果
- ・ガイドスキル講習



(4) アドバイザー派遣実施の効果

1) 参加者や関係者に与えた効果

- ・鳥羽市という山田町と主幹産業が同じである地域の資源・人を活用した観光推進の実例を聞き、いままで観光に興味をもたなかった人たちの興味を引いただけでなく、具体的に何かしようという意欲も出てきた。
- ・講演・講習内容を細かく分け、時間帯も精査したことで（回数は多くなったが）、聴講・受講してほしい層が参加しやすくなり、また、いままで観光系の講演会に参加しなかった商業者も参加。町内の幅広い業種、層と「観光推進」について共有できた。
- ・なによりも、江崎氏のバイタリティと人柄に町民が惹きつけられ、やる気が出たようだ。
- ・プロの目から見た山田町の魅力を知り、町の魅力の見直し、アピールするためのヒントを得られた。

2) 今後、期待される効果

- ・行政と民間連携による体験観光の推進に拍車がかかる
- ・商業者による体験観光（コーディネーター）への協力
- ・ガイドや体験観光受け入れ事業者の増加

3) 今後の取り組み

- ・体験観光を活用した、復興する街中（商店街）への具体的な誘客活動
（まち歩きツアーや漁業と連携したプログラムの開発）
- ・現在行われている体験プログラムのスキルアップと、より誘客できるプログラムの開発
- ・体験観光のコーディネーターおよびガイドの育成
- ・民泊（農家・漁家）事業の開始（震災の影響で町内の宿泊施設が足りないため）
- ・鳥羽市のような漁観連携づくり
- ・教育旅行等団体客の受け入れ
- ・ジオパーク、潮風トレイルを生かしたツアーづくり

(5) 今後の取組推進にあたり参考となった事項、その他感想

1) 参考となった事項

- ・体験観光の経済波及効果
- ・鳥羽市で江崎氏が行っている取り組み
- ・講師から見た山田町の地域素材の魅力

2) その他感想

- ・以前町内の視察はひととおり行っていただいていたので、今回は 2 日間でより多くの人に講師の話を聞いてもらいたいと、講演・講習会を 5 回もやっていただいた。江崎氏には無理をお願いしてしまっただが、町民の満足度は高く、山田町にとってとても有意義な 2 日間となった。

(6) エコツーリズム推進アドバイザーから地域へのアドバイス

江崎 貴久氏 (株式会社 代表取締役 江崎 貴久)

1) 地域における取組の現状と課題

①現状の取組と課題

山田町行政の中に観光行政が立ち上がり、「山田町観光復興ビジョン・やまだプライド」が発行された。行政においても、現場においても、その位置づけが岐路である。

これまで、いくつかの体験プログラムや震災復興語り部ガイドの取り組みを実施している。震災前からの取り組みが、震災によって休止しているものもあり、無理に推し進めるのではなく、町民が取り組める方法を模索しながら行っていく必要がある。一方、これは、行政にも言えることであり、震災復興の仕事が膨大にあるため、民間活力がとて期待される。動きやすい環境づくりは、住民のチームによる少し軽い気持ちでできる取り組みが重要である。やまだくじら大学は、そういった必要性の中でゆっくりと形成されてきたもので、周りからの理解とサポートが重要である。他の地域でこうした取り組みがある場合、勢いとモチベーションに期待をかけることで成長する。しかし、この地域では、あえてプレッシャーにならないスピードと存在の理解が重要である点から、この団体の位置づけは山田町ならではの工夫なのである。今後も、外からの刺激を入れる場合には、このデリケートな宝物に対し、地方創生や観光振興のための企業化や組織化の型にはめてしまうことで壊してしまうことがないようにしていただきたい。

また、カキ・ホタテ養殖事業者の体験プログラムや飲食店の商品開発・カヤックツアー・いか徳利づくり体験など、新たに進みだした体験プログラムについてはそれによる効果の実感とともに、次のステップの必要性が感じられている。

2) 特に魅力を感じた地域資源等

①魅力を感じた地域資源

②上記地域資源に魅力を感じた理由

【地形】山田湾は、湾口が非常に狭く、周囲を広範囲で半島に囲まれている地形そのものがおもしろい。それによる自然環境の特徴も、エコツーリズムをする上で強みとなることが考えられる。特に三陸のこの季節にもかかわらず、比較的波が穏やかであることは、体験プログラム実施において、想定以上の催行率が期待できると思われる。

【ホタテ】湾の特性を生かしたカキとホタテの養殖が盛んにおこなわれている。カキ小屋の取り組みが行われているが、三陸エリアでは山田町は先進地となっているものの、現在日本全国でカキ小屋が流行しており、全国の観光客をターゲットにするにはカキ小屋の場合は競合が多い。よって、移動2時間圏内程度のエリアはターゲットにしやすいと考える。

それに比べ、ホタテは、同じくらい盛んに養殖されている割には、地元注目度が低い。その理由は、「ホタテは、北海道や青森の方が盛んだから。」「北海道や青森のイメージだから。」というものであった。一次産業との連携については、その規模や形態によって観光での活用方法を変化させなければならない。北海道や青森は、ホタテの生産量も圧倒的であり、観光との連携の場合は量産能力による観光との連携が外せない。逆に言えば、量産しているからこそできない対応がある。ホタテは、消費者の許容範囲も広く、形状も女性には特に好印象である。実際の首都圏での物産展などに参加した実績によれば、

一番売れていたものはホタテであったとの報告を JTBF よりもらっている。山田町のホタテの生産量が多くないからこそ、細かなプログラム構成と他ではできないプロモーションにもつながる可能性が高いと考える。

【牡蠣養殖】震災前の写真では湾の大きさに対してカキイカダが多すぎるのではないかと感じた。しかし、震災後、カキイカダが減少しており、生産力としてはマイナスに見えるが、1個当たりの牡蠣に対する栄養分を考えた場合、品質が上がっているのではないかと考えられるからである。しかし、マイナスをプラスにしていくために、カキ養殖業者がカキ養殖の圃場管理をどう考えていくのかによって、エコツーリズムのメッセージ性が考えられる。

【やませ】三陸で有名な自然現象である「やませ」は壮大な自然を感じることができる。画像と動画を見ただけでも、圧倒的な自然の威力を感じ感動を覚えた。しかし、住民の認知度は低く、知っている住民でも昔からの厄介者としての印象である。夏の暑さの中、一転する気温の変化、視界の変化は、住民にとっての日常が観光客にとっては非日常として感動をもたらすことができる。全国に雲海の事例があるが、いつも見えるわけではなく、「見えるかもしれない」というだけで人が訪れている。視覚的な印象が強いこの自然現象は、ぜひ、様々な方法で活用していただきたい。

3) アドバイス（講義等）の概要

3月3日（金） 9時～10時30分 山田町まちなか交流センター

「交流人口増加に、自分たちもなにかできる」①～観光客を呼び込む町の活性化のアイデア～

対象：飲食店、商工会会員、商工会青年部、商店街、グループ補助金事業者、一般

対象が一般的で広いため、同じような漁村での観光として想像できるよう比較しながら、エコツーリズムの基本的な考え方を実話に基づき紹介した。自分たちが魅力的に感じていないモノやコトの中に、たくさん大切な光があるということと、その光らせ方には一人一人の自分なりの方法が重要であることを伝えた。また、漁村であり、自然の活用が生活と密着しているからこそ、「活用されていない自然資源」ではなく「活用されている自然資源」の違った側面からの活用としてレクチャーを行った。

また、地域への良い効果を意識して、何かの活動を行うことが、具体的な効果を生むことを伝えた。面識のない方もいらしたが、次第に笑顔が出始めたことに手ごたえを感じた。

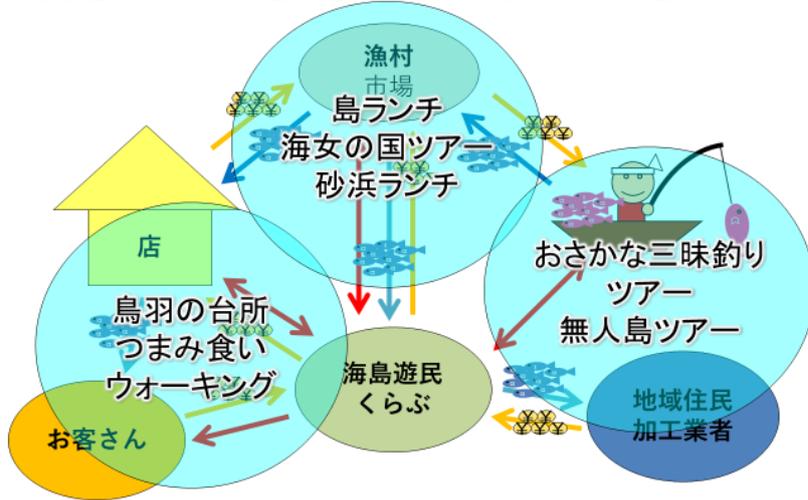
鳥羽市と山田町

鳥羽市産業別就業者数 合計人数10,866人（平成22年度） 山田町産業別就業者数 合計人数8,190人（平成?年度）



全体としては町の雰囲気が違う→漁村地域の観光

観光で地域が潤う仕組みを作ろう！新しい接点と連携づくり



「あり続けてほしい」地域貢献：子どもガイドボランティア 菅島「島っ子ガイド」

育成・企画期間2008年12月～現在に至る
菅島小学校の協力の下、自分の島の自然の特徴と生活文化のつながりを調査し他所から来た人たちにガイド・プレゼンテーションすることにより、島の貴重な資源を大切に思う心を育てる。



第1回 12/19しまっこガイド誕生！！
ガイドってなあに??



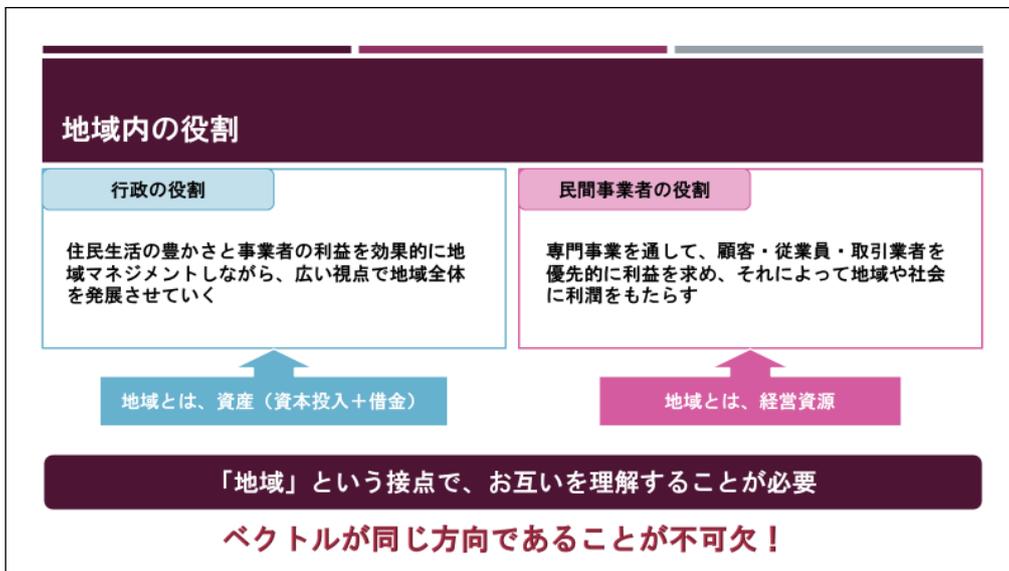
第2回～4回 僕の私の大好きな菅島
見つけた！これが一番やあ！

3月3日(金) 16時～17時30分 山田町まちなか交流センター

「なぜいま町をあげて観光を推進することが必要なのか」

対象：山田町役場職員、商工会職員、観光協会職員、議員、一般

行政や民間人も公的な立場として参加している人々であったため、行政と民間の関係性と役割をどう考えるかという見地から、講義を行った。また、行政と民間が協力して、目的を達成することの必要性から、講義のタイトルを「観光による地域活性化の戦略と手法」と変更させてもらった。若手の行政職員の参加も多く、山田町観光復興ビジョン「山田プライド」が平成28年3月に完成しているの、今後のアクションプログラムに期待がかかっている。実際の行政と民間との連携についてと、地域内でのエコツーリズムの効果を理解していただけたようだった。



観光立国推進基本法

観光立国推進基本法の概要

観光基本法(昭和38年)を全面改正。平成18年12月13日成立、平成19年1月1日施行。

<p>題 名 観光立国の実現を国家戦略として位置づけ、その実現の推進を内容とするものであることにかんがみ、題名を「観光基本法」から「観光立国推進基本法」に改正。</p> <p>前 文 少子高齢社会の到来や本格的な国際交流の進展を機軸に、観光立国の実現が21世紀の我が国経済社会の発展のために不可欠な重要課題と位置付け。</p> <p>目 的 観光立国の実現に関する施策を総合かつ計画的に推進し、もって国民経済の発展、国民生活の安定向上及び国際相互理解の増進に寄与すること。</p> <p>基 本 理 念 観光立国の実現を導く上での ①豊かな国民生活を果たすための「住んでよし、訪れてよしの国づくり」の認識の重要性 ②国民の観光旅行の促進の重要性 ③国際的視点に立つことの重要性 ④関係者相互の連携の確保の重要性を規定</p>	<p>関係者の責務等 ①国の責務 観光立国の実現に関する施策を総合的に策定、実施する。 ②地方公共団体の責務 地域の特性を活かした施策を策定し実施。また、広域的な連携協力を図る。 ③住民の責務 観光立国の重要性を理解し、魅力ある観光地の形成への積極的な役割を担う ④観光事業者の責務 観光立国の実現に主体的な取り組みを行うこと。</p> <p>「観光立国推進基本計画」の作成 ①観光立国の実現に関する長期についての基本的な方針 ②観光立国の実現に関する目標 ③観光立国の実現に際し、政府が総合かつ計画的に講ずべき施策 ④その他、必要な事項を盛り込んだ、閣議決定による観光立国推進基本計画を策定。 (国土交通大臣がとりまとめを担当)</p>
--	---

基本理念

④関係者相互の連携の確保の必要性

連携の確保

「持ちつ、持たれつ」
両方にとって欠かせない接点を持つこと

互いに効果をもたらす『観光資源』

鳥羽市と観光協会による取組への道のり



予算とリーダーシップ→あいまいにできない

PRのみ...戦略なし

【H18年市議会での観光予算説明】
本市の美しい自然や恵まれた食材・観光資源などを宣伝するため、観光ポスターやパンフレット等を作成して、全国的に鳥羽をPRするとともに、各地の観光展やイベントへも参画し、観光客の誘致・集客交流を図る

戦略的展開の始まり

【H19年第1次観光基本計画策定委員会】
・観光資源の保全・活用戦略
・観光ルート・交通戦略
・観光基盤整備戦略
・景観・環境戦略
・ホスピタリティ戦略
・食品・土産品戦略
・旅行商品・プロモーション戦略

前期・後期アクションプラン

戦略的展開の始まり

【H26年第2次観光基本計画策定委員会】
・テーマ別戦略
海文化ネットワーク構想・漁観連携・芸術の観光活用・インバウンド
・地域別戦略
中心市街地・離島

平成27年度 アクションプログラムの検討

これからの漁観連携



ふるさと納税

観光協会が企画・運営
財源拡大・確保
域内への波及効果

水産物の流通

漁協・観光協会・行政・
アドバイザー常教授
(三重大資源循環システム学)
協議会設立

明確な課題

ブランディング・体験 ・水産資源の回復

各漁協支所・観光協会若手・行政
豊かな漁村づくり推進委員会
委員長/アドバイザー 江崎貴久

明確な課題

フォーマットに当てはめるだけでは、ビジネスモデルにならない
どこかのモデル活用は、良いところより、問題・課題を超えてバージョンアップさせる

最近の私の仕事:豊かな漁村づくり推進委員会委員長

2016年度の目標「漁師の信頼を取り戻す」



1本釣りサワラのブランド化事業
アワビ増殖・出逢いプロジェクト



観光協会としての
資源問題(水産・観光)
への取り組み

68

ふるさと納税も鳥羽市から、観光協会へ

平成25年度 鳥羽市での運営 約3800万円

↓
平成27年度 鳥羽市観光協会へ委託 約2億円

↓
平成28年度 約4.8億円

一次産業の生産

2次加工品

旅行商品

やる気のある民間へ！やる気がない民間にはやめてもらう！

3月3日（金） 18時30～20時 山田町まちなか交流センター

「交流人口増加に、自分たちもなにかできる」②～観光客を呼び込む町の活性化のアイデア～

対象：飲食店、商工会会員、商工会青年部、商店街、グループ補助金事業者、一般

前述①と同様

3月4日（土） 10時～12時

「体験観光で山田町をもっと楽しく」

～体験観光とは？ 体験プログラムの作り方とは？～

対象：体験観光受け入れ事業者、体験観光を今後受け入れたい方、体験観光に興味のある方、町の活性化のために何かやってみたいと思っている方

エコツーリズムについて鳥羽や海島遊民くらぶを事例に解説しながら、体験プログラムやガイドツアーの作り方について簡単なノウハウをレクチャーした。自己分析からターゲットとコンセプトを決める方法を体験してもらった。さらにアドバイザーが魅力を感じた地域資源のうち、2つ「やませ」と「帆立小屋」をお題に設定し、それぞれのお題ごとにチーム分けをし、2チームで実際のプログラムを考えながら観光資源化を行うプロセスを体験してもらった。短時間にプログラム作りを体験し、参加者に自信がついたように感じた。

作り方と売り方はセットで考える、それが「マーケティング」です。

- セグメント
- ターゲット
- ポジショニング



自分のポジショニング マーケティングは、ガイド(自己)自身の分析から

簡単な自己分析をしてみよう！

- ガイド分析（長所・特技・好きなこと）
 - 爽やかさと優しさが半分ずつ・スポーツが好き
海と漁村育ち・地域の絆が大切・ボーイッシュ
- どんな人に好まれる？友達で多いタイプは？
 - 女性客に好まれる・故郷が好き
スポーティな人・爽やかな人・悩みが多い人
- 自分の長所は、他の人にとってどんな価値がある？
 - 純粋な気持ちになれる・自然体になれる
リーダーシップに安心感がある
・挑戦する気にさせてくれる

戦略的マーケティングでいうと・・・

- テーマ例
 - 海の爽やかさと厳しさ、漁村の強さと優しさ
- マーケット・ターゲット例
 - アクティブな人々・優しさを必要とする人々
女性・大学生・同級生・アクティブなカップル
ヤル気になりたい人
- 価値・商品コンセプト例
 - コミュニケーションで、お客様の素顔が輝く

作り方① 地域資源の観光資源化する方法 「らしさ」+「ならでは」の法則

「地域資源」+「光る仕掛け」=地域の魅力(観光資源)



- ☆優れた技術
- ☆「今だけ・ココだけ・あなただけ」など希少性
- ☆人気や愛されていること

が、伝わる自分なりの方法！

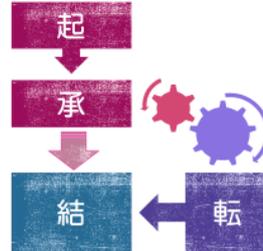
- 職業の違い：ガイド・職人・飲食店員...
 - 個性：長所・特技・好きなこと...
 - チームカラー：共通点・目的の共有...
- ...を活かして →

商品
価値
セグメント

作り方 ②展開：起承転結のあらすじ

地域資源とターゲットが決まったら、「起承転結」を基本に「ならでは」の展開ストーリー・流れを考える

- 「起」は、トピックや現状の説明
- 「承」は「起」を受けて、詳細や背景など肯定的な内容
- 「転」は、意外性や反転といった、心が転じるような展開。飽きさせない効果あり。
- 「結」は、「転」を受けて全体のまとめ



チェック！：お客様の視点・地域の視点は入っているか？

25

3月4日（土） 14時～17時

「おもてなし講習」

対象：ガイド、体験観光の受け入れをしている事業者、おもてなしを学びたい方

この時間のみ空いていたということで来てくれた漁師が参加してくれたことと直前のプログラム作りが盛り上がっていたため、おもてなし講習は時間を半分程度にして実施した。

それぞれが考えたプランを相互に発表してもらい、質疑応答とアドバイザーのコメントを行った。その後、おもてなし講習を行った。おもてなし講習は、「おもてなしとは何か」「ふさわしいおもてなし」「ガイドのテクニック」を座学として行い、その後ガイドのおもてなしを伴ったテクニックについて、ロールプレイングで行った。ガイドの実感が得られたようだった。

今日のお題は、2つの観光資源

「やませ」のツアー



楽しいやませと、暑い温泉
船越半島の遊歩道で出会うかも。
解説しやすいし、トレッキングツアー
シカヤックでも

四季の海から見た山
山から海の向こうに沈む夕日
朝のやの中船、漁船、気風
山田の早朝

真夏の極サ身体験6～8月

暑・寒い・熱い

見えないとき→かこやさんの冷蔵庫で寒さ体験

体の芯まで、あったまることが大事とおばあちゃんにいわれた。

楽しい自然とともに暮らすこと

やませがあるから、涼しい、一次産業には迷惑だけど。

熱いお風呂が平気な漁師さんと一緒に入る

震災後だから、良さが分かった。シンプルに見えて？わかったこと。

ターゲット：内陸の人、女性、大人

地域：やませがお宝に！地域理解・観光による経済効果

観光客：ダイナミックな景観を感じる？体で感じる温度、

自然：

ガイド業：成立



イカダの船中からアゴヤ
建てること自然の恵み
収穫～調理まで
ゴミがついている。きれいになるまでのプロセス、ここがポイント！
帆立幼少時代を語る。

建てること・・・はさておき

ホッタゴヤは、いろいろ！イロイロホッタゴヤ

黄色・スモークハウス・スモークホステル！

祭・・・帆立がっばりレディースのショー

オールドクス

収穫時のことを知ってもらう。

強み・・・遠年続える！時期によって魅力が違う！

3月、ブスの卵巣はオレンジ、精巣は白、オレンジは、3～4月は生で食べられる！

暑・身柱が大きい、熱い・盛りださる目柱

ホタテガイが、山田に来るまで～山田に来てからの苦労と喜びの成長録～どこへいく？

結・・・食べる。EX青小屋に入ったら、はずれ～食べられないとか。違う貝

手間暇への理解から、高いことに納得、いや、むしろ安い！

ひとり¥4000、農小2名

帆立小屋体験

14

「らしさ」+「ならでは」



「地域の素材」+「光る仕掛け」=地域の魅力

ここにしかない「もの」や「こと」
☆限定
「今だけ・ココだけ・あなただけ」
☆優れた技術
☆人気や愛されていること

このサービスや行為が、
あなたの職業であり、専
門性、そしてこだわり！

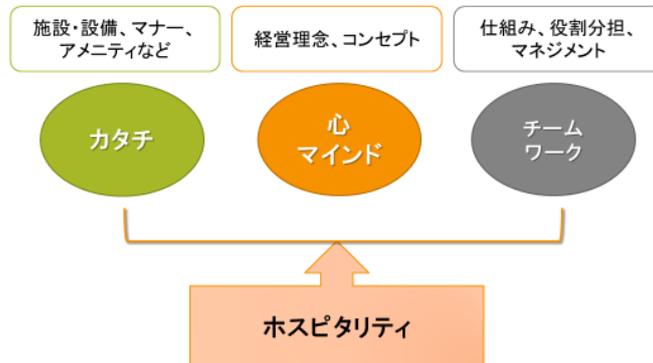
「会社ならでは」「プログラムならでは」「自分ならでは」

個性が発揮される仕組み・マニュアル

優劣のない個性

優劣のない個性を発揮するために

- ・質と個性の違い
- ・ガイドに必要な総合力
- ・ホスピタリティの実践
- ・ハートとマインドで、
おもてなしのクオリティを一定に





4) エコツーリズム推進全体構想への取り組み状況・意向について

①全体構想への取組状況について

現在は、エコツーリズムの考え方やエコツアーによる効果の実感段階であり、時期尚早かと思われる。

②全体構想策定への意向について

現状は、低い。まずは、エコツアーや体験プログラムの実施による実証が求められている。

③全体構想認定に向けて、今後必要なこと

ようやく山田町観光復興ビジョンができたところである。行政内での全体構想への具体的な取り組みの必要性が見出されなければならない。

5) 地域に対する印象、今後地域に期待すること（メッセージ）

山田町観光復興ビジョンが完成したことから、その施行を着実に進めていくことが重要である。また、震災復興が急を要したため、記録や経緯の不明な点による混乱が、行政の業務を圧迫している現状がある。そのため、国やアドバイザー、コンサルタントが実績を焦り、押し付けるような事業の進め方を避ける必要があると強く感じた。

また、計画ばかりではなく、観光による地域への効果は想像を越えるものであり、最初から枠にはめて考えていると想像以下の効果しかでないという私自身の経験から、この地域の自然発生的なコミュニティの治癒力と自然のポテンシャルに対する創造力を自由にするすることで、取組が膠着する地域の次へのヒントともなりうる。

また、初日から参加していた人の中には、他の方との面識がない方もおり、最後まで続けて参加できるかが心配だったが、ワーキングを通してとても積極的に発言する姿が印象的だった。こうして発見された新たな人材を今後地域で、フォローアップしていただきたい。